

入試が変わるのは宮城だけではない！ 解りやすく会話でご説明いたします。



2020年度入試から大学入試が変わりますよね。
例えば、英語では民間の検定試験を使うことができるというものです。
また、**2020年度を待たずに、現在、既に民間検定を評価する大学も増えてきています。**

そうですね。千葉大や筑波大などの難関国立大学でも、もう既に英検やGTECそしてTEAPといったスコアを入試の評価対象にしています。
残念なことは、大学入試に採用される検定を一般的に有名な英検やTOEICまたTOEFLだけだと思っている方も多いかもしれません。



はい、意外にGTECやTEAPといった検定を知らない方は多いと思います。これはもったいない話ですよ。大学入試は情報が重要です。各大学、入試が異なることがありますから。
ところで高校入試では、都立でスピーキングを入試に導入しますね。さらに中学入試でも英語が受験科目として出題する中学が増えてきました。

はい、東京の都立高校では大学入試制度変更に伴い、入試でスピーキングを導入します。これは全国に先駆けたものです（過去には他県も）テストの形式は受験生が発音した英語を録音するものです。TOEICなどでやっているものに近いです。
宮城は、のちに英語の授業はすべて英語で行うようになりますから、高校入試でスピーキングの実施も将来あり得ることですね。
また小学校では英検4級程度の英語授業になりますので、中高一貫の入試でも英語が加わることになるかも。（あくまでトレンドからの予想）



なぜ今入試制度が変わるのか？

結論

小・中・高の学習を通し、国際的に活躍できる人材を教育するため（英語が話せる等、実学の実施）
生徒事情

①知らないと損②求められる内容が難しくなる③人物の実力が見られる時代（点数だけじゃない）

左の先生：白瀬先生（愛子教室にて英語担当；東京外国語大学英米語学科卒業）

右の先生：吾妻先生（愛子教室教室長、英語・国語・社会担当；東北大学経済学部経営学科卒業）